

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームほほえみの家 A棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100743		
法人名	社団医療法人池田記念会		
事業所名	グループホームほほえみの家 A棟		
所在地	岩手県滝沢市高屋敷平11-1		
自己評価作成日	令和3年12月1日	評価結果市町村受理日	令和4年6月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は同一法人が経営する老人保健施設と神経科・内科クリニックの隣接地にあり、福祉と医療が連携を密に図りながら、利用者様が安心して穏やかな生活が送れるよう支援している。また、介護支援専門員の有資格者5名、介護福祉士の有資格者13名(介護支援専門員も含み)の職員を基準より手厚く配置している他、認知症実践者(リーダー)研修を終了した職員もおり、専門的な知識や技術を活かした認知症ケアを提供している。今年も新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、地域交流や買い物などの日常的な外出を控えなければならない状況が続いているが、感染症対策を行いながらホーム周辺を散歩したりドライブに出掛けるなど、可能な限り外出する機会を設けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、同一法人が経営する老人保健施設と神経科・内科クリニックが同敷地内に立地していることもあり、体調の変化にも早めの対応が取られ、利用者及び家族からは安心感を持って受け止められている。職員は介護専門員や介護福祉士の資格を有している職員が数多く、専門的な視野に立ち、福祉と医療の連携を図りながら、利用者が穏やかな生活を送れるよう支援に努めている。近所に開設されている保育園の園児が来所し、触れ合いを持っているほか、地区の清掃活動にも利用者や職員が参加するなど、地域との交流も図られている。特に、「生活支援計画書」などに基づく明確な介護プランを作成し実践しているほか、「夕食献立会議」を設置して利用者の意向に沿った食事提供や隔日の入浴回数設定など利用者の処遇や支援を中心に置いた質の高い介護に取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年4月13日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

事業所名 : グループホームほほえみの家 A棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に理念を意識して動けるようホーム内に掲示しているが、職員間で理解度に差がみられる。例えば強化月間として理念のキーワードを1つずつ復唱する等取り組んでいきたい。	開所して10年が経過した頃に、当初の理念を全職員で話し合い見直している。理念を意識して業務に携われるよう、玄関、談話室、台所に掲示するとともに、業務に大事なポイントを理念のキーワードの中から定めて、職員間で復唱する取り組みを考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの感染拡大に伴い日常的な外出や地域交流は制限されている。しかし、感染状況をみながら少しずつではあるが、距離を保ちながら保育園や地域の方々と交流を始めている。	自治会に加入し、地域主催の祭りの設営や防災訓練でのトランシーバーでの連絡係、炊き出し等に参加し、清掃活動では利用者も参加している。また、事業所の草取りには地域の方々に来てくれるなど、地域の一員として交流が図られている。保育園(園児)とは感染防止に努めながら、常に触れ合いの機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で生活している方が認知症の症状で対応が難しいことがあれば、いつでも協力できることを運営推進会議内で伝えている。また、滝沢市からの委託を受け「認知症まちかど相談室」の窓口を設置し、いつでも相談に応じられる環境を整えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により、市の施設を利用して開催しているため、写真や動画で生活の様子を知っていたるように工夫している。各委員から意見をもらい、取り組める内容から順次取り組んでいる。検討事項や2カ月間の取り組み状況を報告し、会議の中で出された意見を職員会議で検討し次の会議で報告している。	運営推進会議メンバーは利用者家族や地域の方々、地域包括支援センター職員で構成され、写真を交えながら事業所の様子や状況等を報告し、活発に意見交換が行われている。出された意見や検討事項をもとに、職員会議で取り組める内容を話し合い、それを次の会議で報告をして、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの要請で介護家族相談会への参加やまちかど相談の窓口を設置している。ホームで解決できない事案については、運営推進会議の場で相談したり、その都度電話で担当者に相談にのってもらっている。	市からの要請を受け、介護相談会へ参加したり、地域の介護等に関わる相談窓口として、「まちかど相談室」を開設している。認知症カフェである「オレンジカフェ」にも携わっている。市の担当課とはメールで情報の提供を受けたり、指導を頂く等、連携や協力関係が出来ている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームほほえみの家 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全を確保するためにセンサーを使用しているが、日中は玄関の鍵をかけていない。利用者の表情や仕草から不安な気持ちを察知し、帰宅願望による行動が起きる前に本人の好む活動を提供している。3ヶ月に1回はスピーチロック月間として、標語を勤務者で復唱するなど職員間で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束適正化検討委員会を2ヵ月毎に開催し、スピーチロックを含めた身体を拘束しないケアの実践に努めている。利用者の居室には転倒防止のために、フットマット1台、サイドコール2台を家族の了承のもとで取り付けているが、必要性について改めて検討している。年度末に、ヒヤリハットや事故についての細かいデータを取りまとめ、次年度初回の運営推進会議で報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スピーチロック月間を設けて3ヶ月に1回実施し、会議でも話し合いの機会を持ち意識の向上を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームに関わりある部分についてはある程度理解しているが、それぞれの制度の持つ役割については十分に理解しているとはいえない。そのため、勉強会や研修に参加する機会をつくり、理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の申込みをいただく時は、利用者やご家族が十分に理解し納得していただけるよう時間をかけて分かりやすい説明を心掛けている。また不明な点があるまま申込みに至らないようこまめに確認をしながら話を進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは介護相談員を通すなどして希望を聞きだす機会をもっている。職員も日常生活の中で出される希望や要望を大切に、会議などで話し合いの場を設けている。重要だと思われる事項については運営推進会議でも報告するようにしている。家族からは定期的に電話で状態報告をする時に要望や意見を聞くようにしている。	日常生活の中で職員が利用者から希望や要望を聞いたり、更に市から2名の介護相談員が来所し、利用者の要望等を聞いてくれることで、気づきに繋がっている。家族には、2ヵ月に1回、利用者の様子を伝えたり、広報誌「スマイル」で、事業所の様子を写真で知らせている。また家族等が面会に見えた際に、要望や意見を聞いて事業所運営に反映している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームほほえみの家 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を開催している他、必要に応じて会議を開催し職員の意見を聞く機会を設けている。会議で検討課題がある場合は、管理者が上司と相談しながら職員の要望、意見の実現に努めている。	毎月1回の職員会議と必要に応じて随時開催する会議の中で、職員から意見や要望を聞く機会を設けている。要望の内容によっては、管理者が法人と協議しながら実現に努めている。業務の進め方についても、「仕事見直し係」を中心に見直しを図り、法人が資格取得の費用を負担し、職員が仕事に対し意欲を持てるよう支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者との協議の中で各職員の個々の努力や実績等を把握し、人事考課も加味し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修には多くの職員が参加できるようにし、研修報告を職員会議内で行っている。ホーム内では年4回の勉強会を開催し、経験年数ごとに学ぶ内容を変えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はコロナのため開催がなかったが、通常では1ヶ月に一回程度定例会があり、職員を交代で参加させている。定例会では他のホームと情報交換したり、事例検討や職員の交換研修などを行い質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の中で生活状況を把握するよう努めると共に、利用希望者にもホームに来所してもらい、不安なく安心して入居してもらえるように工夫している。また入居時には家族に『私の基本情報シート』を記入してもらい、情報の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を希望するまでに至った経緯や今困っている事を聞き出し、在宅での生活継続も含めてホームの利用について説明している。また、現在は面会に制限があるため、定期的に電話報告することで、家族との信頼関係の構築に努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームほほえみの家 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム利用に不安のある方は、入居するまでにホームの雰囲気馴染んでもらうために短時間でもホームで過ごすように勧めている。又、相談時に緊急を要する場合、他のグループホームの空き状況を確認したり、他の施設を紹介するなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分が必要とされていると思って頂けるようにその方の能力に応じた役割をお願いしたり、活動に参加できるように配慮している。利用者は人生の先輩であることを職員間で共有しながら、尊敬と感謝の気持ちで接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナのため面会制限中である。そのため2カ月に1回電話で近況報告し、利用者の健康状態や生活の様子を伝え、家族と情報共有するよう努めている。運営推進会議の委員となった家族が、ホームの事情を知ることで、行事に積極的に参加してくれるようになるなど変化がみられている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(昔住んでいた地域)や自宅に行ったり、訪ねてくる知人との面会や外出には柔軟に対応しているが、コロナ禍での面会の制限等もあり知人の面会や外出はなかった。LINE電話やZOOMなどを活用し交流する機会をつくったり、コロナ終息後は広報誌の活用や家族から知人に働きかけていただくなど状況を見ながら進めていきたい。	利用者個々の希望や要望を聞き取ったうえで、職員と一緒にご飯を食べに外出したり、入居前の馴染みの理容室に行くなどの支援に努めている。利用者の中には、お願いして来てくれた理容師が、今は馴染みとなっている場合もある。入居時の利用者情報「私の支援マップシート」をもとに、生活支援を行っている。今は、馴染みの場所へ外出したり、知人と面会することがコロナ禍で出来なくなっているが、LINEやZOOMを活用し、交流の機会をつくっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は役割を協力しながら行うことで、お互いが支えあい、相手を思いやる関係性が自然にできている。また職員は、利用者同士のトラブルが生じた際、お互いのダメージが残らないように調整役となって支援している。意思の疎通が難しい利用者に対し、少人数での関わり場の場を設けるなど支援している。		

事業所名 : グループホームほほえみの家 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの生活環境が損なわれないように、支援の内容、注意が必要な点について情報提供している。又、退所時連絡書を使用し、詳しい情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりのなかで利用者の言葉や表情から意向の把握に努めている。家族から得た情報も記録に残してケアに活かしている。また、認知症状による行動や言動についても利用者の思いに寄り添うケアを実践している。	日々の関わりの中で、利用者の言葉や表情から本人の意向を把握し、認知症状による行動や言動を理解し、思いに寄り添うケアを実践している。家族から得た情報は、記録に残して日常のケアに活かすとともに、プランにも取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する際に本人のバックグラウンドの把握に努めているが、入居後も本人の行動や面会者の情報を収集し、その方を理解するよう努めている。また、会話の中から情報を大切に、家族に確認したりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の利用者の体調や気分などを把握し、どう過ごしたいか何をしたいか引き出せるよう声掛けの工夫をし希望に沿った支援している。現在の能力を見極めながら活躍できる場を提供している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の暮らしの内容や家族の意向を踏まえ、希望に沿った計画を担当者が作成している。責任者が点検、確認した上カンファレンスを開催し本人にも参加してもらっている。完成した計画は家族の同意を得ている。プランの実施は全職員で行い特記は個人記録に詳細に記入している。月1回担当者がモニタリングを行い評価につなげている。	計画作成担当者は、利用者本人と職員による毎月のカンファレンスの結果と自らのモニタリングの内容に基づき、家族等に説明し意見を聞いて介護計画を作成している。またクリニックの医師の指示や看護師の助言も計画に反映させ、6か月毎に見直しを図り、作成したプランは家族等の同意を得ている。プランの実施は全職員で行い、特記事項は個人記録に詳細に記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子やケアの実践で気付いたこと、本人の発した言葉などを細かく記入している。その内容は介護計画の見直しに活用したり、職員間で情報共有し、利用者対応に活かしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームほほえみの家 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の付き添いなど家族と利用者のその時々々の要望に応じ柔軟に対応している。今年は新型コロナのため外出自粛が続いており、積極的な取り組みには至らなかった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に自治会の代表や包括の職員に参加して頂き、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接地にクリニックがあり受診の付き添いは職員が対応しているため、かかりつけ医に選んでいる家族が多い。専門科目以外の病気については家族の希望を踏まえ、他科受診で対応している。他科受診の際は家族に受診対応をお願いしている。	入居の際に、かかりつけ医を自由に選択できることを説明しているが、医療連携体制を取っている事もあり、家族の同意の下で協力医である法人のクリニックをかかりつけ医に変更している。他科の受診は家族が同行しているが、無理な場合は職員が対応している。敷地内にあるクリニックの看護師が毎週月曜日の午後に来所し、毎週木曜日には訪問歯科の診療を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問する看護師に利用者の健康状態など気になることを報告し、対応方法など助言をもらっている。医師への報告が必要な場合は、看護師が伝達する役割を担うことで、正確な情報が伝わる仕組みになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した場合には情報提供書などを利用し、本人の情報を細かく伝えるようにしている。病状説明の際には家族だけでなくホーム職員も極力参加し、医療機関との連携をはかっている。また、早期退院が可能な場合は部屋を確保しておくなど、退院後スムーズにホームに戻ることができるよう対応している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームほほえみの家 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化等の対応指針を定めており、契約時に説明し理解を得ているが、基本的には家族の意向を尊重しながら対応している。ホームでの看取りを希望する時は隣接する医療機関と連携して対応し、他の施設を望む場合は紹介することになっている。	入居時に重度化等の対応指針を説明し、理解を得ている。体調に変化が見られた時には、家族と十分協議し、看取りを希望する場合には、隣接する医療機関と連携して対応している。他施設への住み替えを希望する場合には、特養や老健を紹介し入所を支援している。これまでに医療行為を要しない方、5人程の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の勉強会を実施し習得するようにしている。また、緊急事態に対応できるようにマニュアルを整備し、周知徹底をはかっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中と夜間想定消防訓練を実施。台風などの災害を想定しマニュアルに沿って各職員に担当を決め、物資の購入や情報収集、設備の点検を行っている。非常食も備蓄した。災害協力が今年度の訓練に参加する予定だったが、コロナ禍のため訓練の参加は中止した。訓練書には目を通してもらっている。	年2回、夜間想定と日中の訓練を実施している。避難計画書や災害時のマニュアルを作成し、災害を想定した職員の役割分担を決めている。職員会議で夜間の誘導の仕方を話し合ったり、災害時にグループラインで連絡を取り合い隣接事業所職員の協力が得られる体制が出来ている。反射式ストーブやパウチ食品、フリーズドライの味噌汁など概ね1週間分を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や自室での更衣等、プライバシーや羞恥心に配慮したケアを心掛けている。また、排泄についての情報を共有する時に配慮が行き届いていない場面があったが、お互い略称で情報交換するなど配慮したやり取りができるようになってきている。	部屋での着替えや排泄時にはドアをフルオープンにしないことや、オムツの交換時には、他の利用者から見えないようにする等、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮したケアを心掛けている。配慮に欠けた場面が見られた時には、職員間で話し合いをし、略称(小便は○、大便は◎)で情報の共有を図っている。	利用者一人一人の人格の尊重やプライバシーを保護するうえで、共通した介護サービスの提供ができるよう、職員間で更に話し合いを重ね、同じ認識の下での支援を行う取り組みを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お好みメニューやおやつ選びを通じて利用者が生活の中で自己決定が出来るような仕組みを取り入れている。また、自己決定出来ない方は飲み物リストを活用し、選びやすいような働きかけを行っている。誕生日にはケーキなど希望の物を召し上がっていただいている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームほほえみの家 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩などその日の利用者一人ひとりの希望やペースに合わせて支援しているが、対応が難しい場合は本人に説明をし、待ってもらうか他の活動に気が向くよう誘っている。また、入浴は利用者の希望する時間にするなど配慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師が来所し、カットや顔そりをしてもらっている。衣類交換の際は本人と一緒にタンスから好む服を選択している。化粧をされる方は継続して行えるように物品の補充をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染対策のため買い物は休止中だが、食事への関心や意欲を高めながら楽しめるように、週2回、利用者から好みのメニューを尋ねたり、献立と一緒に考え提供している。一緒に収穫した野菜等を使用し、季節を感じてもらえる機会を持っている。日常的には下ごしらえ、盛り付け、後片付けに参加してもらっている。	食に対する関心と、食べたいという意識を持ってもらうために、毎週火曜日と金曜日にお好みメニューをリクエストして貰い、提供している。「夕食献立会議」を開催し、利用者の意見を聞きながら献立を考えている。また、食事形態を利用者一人一人に合わせ、栄養面については、隣接事業所の栄養士から適時にチェックして貰っている。利用者は野菜の皮むき、下ごしらえ、盛り付け、後片づけなど、出来る事を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や一人ひとりの状況に合わせて、トロミ剤使用や食事形態を変えている。水分も自由に飲めるようにポットをホールに設置し、定時の水分補給以外にも水分補給が出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが出来る方は見守りや声掛けをし、上手く磨けない利用者は磨く能力にあわせて最後に仕上げ磨きをしている。自分で磨くことに出来ない方に関しては毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎防止等に努めている。舌苔がある方は専用のブラシを使用している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームほほえみの家 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態・状況に合わせて誘導等の対応をし、トイレでの排泄ができるように支援している。トイレに座った時に水の音を聞かせたり、一人になる時間を作り排泄しやすい環境となるよう工夫している。	時間誘導を基本に、利用者本人の排泄をチェックしパターンを読み、一人一人の状態や状況に合わせたトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄が出来るように、水の音を聞かせたり、一人の時間を作ったりして排泄しやすい環境を考慮しながら支援している。自立している利用者はA棟、B棟合わせて5人、介助・見守りの必要な人は13人となっている。以前より汚す回数が減ったり、夜間のおむつ交換の頻度が減るなどの改善も見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	玄米ご飯や雑穀ご飯を食事に取り入れている他、食物繊維の多い野菜の献立にする工夫も行っている。便秘気味の方は、看護師に相談し適切な下剤の量を調整するとともに、早い段階での下剤服用を心がけている。また、体操や運動を取り入れ自然排便を促すように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者にその日の希望を確認し、希望に沿うようにしている。入浴を好まない利用者には同性が声をかけたり、機嫌が良い時間帯に入浴できるようセッティングする等工夫している。	基本的には、2日に1回、一日おきに入浴する体制としているが、利用者のその日の意向を確認し、希望に添うように心掛けている。入浴時間は午後1時から5時半頃までに済ましている。入浴を好まない人には、同性の職員が声掛けし、機嫌が良い時間帯を見計らって入浴を勧めている。匂いの良い入浴剤を入れたり、菖蒲湯やゆず湯にし、季節を感じとってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	コロナ禍で外出する機会が減ったが、日常的に家事や体操等で活動量を確保できており、生活リズムが整っている。昼食後に昼寝する時間を取る等、適度な休息も取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方や用量が変更されたり、本人の状態変化が見られる時はいつもより詳細な記録をとるようにしている。また、訪問看護で看護師から助言を頂いている。常時個々の薬剤情報をファイルにして、いつでも把握できるようにしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームほほえみの家 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、掃除、縫い物など日常生活で出来ること出来そうなことを普段の生活の中で見極めながら役割をもっている。季節を感じられるよう掲示物で四季を表している。季節に合わせた行事だけでなく、利用者一人ひとりのやりたいことを聞きだし個別対応にて実践している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策の為、買い物や個別対応などの外出支援は自粛中ではあるが、天気の良い日はホーム裏のバラ園を散策したり、畑で野菜を収穫するなど日常的に外に出る機会を設けている。その他にも感染対策をした上でドライブに出掛けたり、戸外でできる芋煮会や夕涼み会を開催して楽しい時間を過ごしていただいた。	コロナ禍で、個別対応の外出支援は出来ない状況であるが、天気の良い日は、事業所の裏のバラ園まで散歩をしたり、ゴミ出しや畑でジャガイモなどの野菜を収穫したり、玄関前のプランターに苗を植えたりするなど、戸外に出る機会を設けている。週末を利用し、少人数で御所湖や岩山へ出掛けたり、季節によってはお花見や紅葉狩りを楽しんでいただいている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は常時お金を所持している利用者はおらず、支払いをする機会も少ない。コロナ禍で利用者が買い物に行くことができなかった。今後はホーム内で売店を開きおやつ等を購入する機会を作っていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人の希望時は気軽に電話をかけてもらっている。年末には年賀状を出しており、なるべく自力で書いてもらうように支援している。職員が家族に電話する際本人に声をかけ電話で話すきっかけ作りをする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた調度品をホールに置いている。菖蒲湯・ゆず湯、水木だんごなど体験することで季節を感じられる機会も設けている。ホールには3畳の畳を敷いた和のスペースと洋のソファを配置して好みの場所で居心地よく過ごせるようにしている。	暖房はエアコンを利用し、廊下と食堂に加湿器を設置し、適度な室温調節を行っている。ホールには、畳3枚を敷いたスペースや、ソファ、食卓用のテーブルがあり、利用者は自分の好きな場所で自由に過ごしている。掲示版には季節感のあるものを飾ったり、壁には広報誌を引き伸ばして掲示している。利用者は、自分が写っているのを見て楽しんでいる。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームほほえみの家 A棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの中に1人掛けのソファや椅子を設置し一人になれる空間作りを行っている。トイレや廊下に行きごとの写真や絵などを飾り、楽しめる空間づくりを行っている。気の合う利用者同士がお互いの居室を行き来し会話をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に思い出の物や使い慣れた物を持参して頂くよう働きかけている。居室にはテレビや椅子などそれまで自宅で使用していた物が置かれ、本人や家族の写真、家族やホームからの贈り物が飾られている。備え付けの家具を使っているが、配置を変更することで、使いやすい環境になるようにしている。	備え付けのものは、ベッド、クローゼット、洗面台で、エアコンで室内温度を適温に保っている。居室には自宅で使い慣れた物や、テレビ、家族写真等を持参し、家族からの贈り物や、事業所からの誕生会の贈り物が飾られている。掃除は職員が行っているが、部屋のモップ掛けをしたり、自由に配置換えをし、居室が使いやすく、居心地良い場所になるような室内づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカーを利用している人が利用しやすいように座る席の調整を行っている。又、冬場は転倒防止の為スロープに滑り止めマットを敷いている。		